

**設題 I**

マーク・シートの解答用紙を使用すること(【1】～【50】は問題の番号を、①～⑩は選択肢の数字を表している)。

以下の【1】～【36】はすべて「講義資料」のプリントからの抜粋だが、句読点や省略箇所などを若干変更したものもある。【1】～【20】については[語群A]から、【21】～【32】については[語群B]から、その出典を選びなさい。また、文中の空欄部分【33】～【42】に該当する語を[語群a]から選びなさい。小問αの【43】～【46】は[語群α]から、小問βの【47】～【50】は[語群β]から選びなさい。

- 【1】《道は猶を路のごとし。》  
 【2】《世に銭程面白き物はなし。》  
 【3】《商人の買利ハ士ノ禄ニ同ジ。》  
 【4】《物価の賤しきは、金銀の貴きなり。》  
 【5】《利ヲ取ラザルハ商人ノ道ニアラズ。》  
 【6】《古ヘヨリ君臣ハ【33】ナリト云也。》  
 【7】《実ノ商人ハ先モ立、我モ立ツコトヲ思フナリ。》  
 【8】《【34】は、才覚に【35】手伝では成りがたし。》  
 【9】《皆武家【36】ノ境界ニテ、制度ナキ世界故……。》  
 【10】《聖人ノ道ハ、天下国家ヲ治ルヨリ外ニハ別ニ所用無シ。》  
 【11】《【37】は先後有る者に非ざるなり。惟れ【38】なり。》  
 【12】《【38】には乱無く治も無く、唯安食・安衣なるのみなり。》  
 【13】《先王の道は、先王の造るなり。天地【38】の道に非ざるなり。》  
 【14】《民ノ業ニ本末トイフコトアリ、農ヲ本業トイヒ、工商賣ヲ末業トイフ……。》  
 【15】《今は銀がかねを儲くる時節なれば、中々油断して【39】はなりがたし。》  
 【16】《一国一ト味方ニナリテ、他国ノ金ヲ吸ヒ取ルトハ、【40】マワシガ其機密也。》  
 【17】《天下ノ【41】ヲアツメ、血液ヲカヨハシ、大成スルモノハ、大坂ノ米相場ナリ。》  
 【18】《故に此の直耕者は王・将・侯・士・僧、凡て食食者の父母なり。これ転子なり。》  
 【19】《金銀の用は、唯諸貨運輸の用ばかりなれば、楮鈔にても、【42】にてもすむ者なり。》  
 【20】《惣じて、親のゆづりをうけず、その身才覚にしてかせぎ出し、銀五百貫目よりして、これを【34】といへり。千貫目のうへを長者とはいふなり。》

- |       |        |        |         |        |       |
|-------|--------|--------|---------|--------|-------|
| [語群A] | ① 俣原   | ② 稽古談  | ③ 経済録   | ④ 語孟字義 | ⑤ 政談  |
|       | ⑥ 統道真伝 | ⑦ 都鄙問答 | ⑧ 日本永代蔵 | ⑨ 弁道   | ⑩ 夢ノ代 |
| [語群a] | ① 産物   | ② 仕合   | ③ 自然    | ④ 市道   | ⑤ 知   |
|       | ⑥ 転定   | ⑦ 渡世   | ⑧ 飛銭    | ⑨ 分限   | ⑩ 旅宿  |

- 【21】《立国は私なり、公に非ざるなり。》  
 【22】《農戸の減少は必しも悲しむべきことに非ず……。》  
 【23】《この失はれたる経済自治の回復を図らなければならぬ。》  
 【24】《いわば村も家もともに労働組織の別名であったのである。》  
 【25】《自由の気風はただ多事争論の間にありて存するものと知るべし。》  
 【26】《渡海・運送・交易は国君の天職なれば、商民に任すべきに非ず。》  
 【27】《是即ち人為の処置は以て自然の商売に及ばざる所以なり。》  
 【28】《あたかも一身にして二生を経るが如く、一人にして両身あるが如し。》  
 【29】《属島之開業といふは、日本附之島々を開きて良国となすべきをいふ。》  
 【30】《故に文明の事を行う者は私立の人民にして、その文明を護する者は政府なり。》  
 【31】《然レバ則チ世界万国ノ蒼生ヲ安ズルハ、最初ヨリ皇国ニ主タル者ノ要務タルコトヲ知ル。》  
 【32】《近来、日本の景況を察するに、文明の虚説に欺かれて、抵抗の精神は次第に衰頹するが如し。》

- [語群B]            ①学問のすゝめ      ②郷土生活の研究法      ③経世秘策                      ④混同秘策                      ⑤西洋事情  
                          ⑥中農育成策      ⑦都市と農村              ⑧文明論之概略              ⑨明治十年丁丑公論          ⑩瘠我慢の説

小問α

【43】は『折たく柴の記』で、重量は同じだが金の含有率を三分の一以上も減らした、【44】による【45】小判の改鑄を激しく批判している。《これを人にたとふるに、五穀の類は、毛髪が生じ出る事、やむ時なきがごとし。五金の類は、骨髄のふたゝび生ずる事なきに似たり》。《はじめ金銀の製を改造らるゝごときの事なからむには、天地の災も並び至る事なからむもしるべからず》。つまり、【45】十六年の大地震、【46】四年の大地震や富士山の噴火も、貨幣を疎かに扱ったためだといふのである。

- [語群α]            ①新井白石          ②荻原重秀          ③松平定信          ④田沼意次          ⑤徳川吉宗  
                          ⑥寛政                  ⑦享保                  ⑧元禄                  ⑨正徳                  ⑩宝永

小問β

福澤諭吉が永らく筐底に秘めてきた「明治十年丁丑公論」と「瘠我慢の説」の公表に踏みきったのは、【47】年に没する直前であった。前者は、国賊とされた【48】のための弁護論であり、後者は旧幕臣の【49】や【50】の出处進退に疑問を呈したものだが、予めその草稿を贈られて意見を求められた【49】は、「行蔵は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与らず、我に關せずと存候」と返答して名言を遺した。

- [語群β]            ①1889                  ②1901                  ③1905                  ④1914                  ⑤伊藤博文  
                          ⑥榎本武揚          ⑦大隈重信          ⑧勝海舟                  ⑨幸徳秋水          ⑩西郷隆盛

**設題Ⅱ** (論述問題一弁解や嘆願は「不可」、白紙の場合は成績評価を「欠席」とする)

第1問 答案用紙(別紙)の表面を用いて、次の問いに答えなさい。

江戸時代の日本の「経世済民論」と、同時期の西洋の“Political Economy”との類似点と相異点を、具体的な人名や事例をあげて論じなさい。(図を用いてもよい。)

第2問 答案用紙(別紙)の裏面を用いて、次の問いに答えなさい。

経済学との関わりを中心として、福澤諭吉と柳田國男の思想を、それぞれの経歴や著作に即しながら、対比的に論じなさい。